



北部教育研修センター 2023 年度センターだより

2024 年 3 月 8 日(金)
沖縄県名護市字為又 1220-146
北部教育研修センター

発行責任者
センター長 高安 美智子

北部教育研修センターと名桜大学教員養成支援センターの統合

2019（平成 31）年 1 月 23 日、北部広域市町村圏事務組合の委託を受け、名桜大学地域連携機構に「北部教育研修センター」が設立されました。本センターは、次世代を担う北部地域の子どもの学力向上に向けて、その教育を司る教員の主体的・協働的な学びの環境整備に資するための機関でした。内閣府の補助事業は 2021 年 3 月末をもって終了となりました。しかし、教員養成講座の存続を望む声が多くあり、2022 年度以降も、北部教育研修センターとして、教員養成講座及び教員研修を継続して実施してまいりました。

さらに、2024 年度 4 月より、北部教育研修センターと名桜大学教員養成支援センターが、統合する運びとなりました。北部教育研修センターは、約 5 年間の活動でしたが、先行して 2017 年度から開始した教員養成講座は、7 年間で 125 人の合格者を輩出し、北部出身受講者 100 人が合格するという実績も残すことができました。

本講座は、名桜大学教員養成支援センターの事業として、これまでどおり学生と一般の地域の受験者も含めて参加できる教員養成講座を継続・実施してまいります。

これまでご理解とご協力を賜りました皆様に心より感謝申し上げます。引き続きよろしくお願いいたします。

教員養成講座報告書①

2023 年度採用試験合格 31 人、北部地区出身 7 年間で合格 100 人達成！

2023 年度実施の北部教員養成講座受講者の合格者は、過去最高の 31 人となりました。その内訳は、名桜大生 7 人（英語 4、保健体育 2、養護教諭 1）、一般受講者 24 人（小学校 18、国語 1、英語 1、音楽 1、養護教諭 3）でした。北部教員養成講座がスタートした 2017 年度からの北部地区出身合格は、累計 100 人を達成することができました（表 1）。このような合格者 100 人達成は、受験者の努力はもとより、彼らを支えてくださった関係者の皆様のご支援の賜物です。心より感謝申し上げます。合格者の皆様、誠におめでとうございます！

教員採用試験最終合格者数7年間の推移

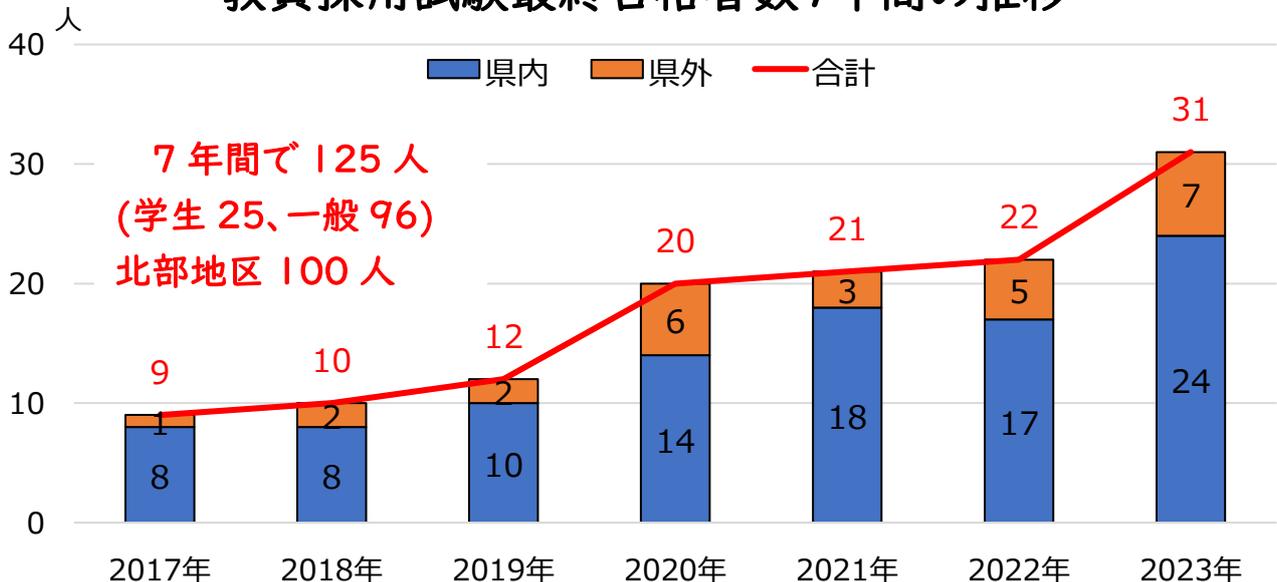


表1 教員採用試験合格者数の7年間の推移・合計

		2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	合計
第一次試験合格者	名桜生	1	5	10	8+1	10	9	11	54+1
	一般	10	10	7(5)	11(5)	10(10)	5(15)	13(14)	66(49)
	合計	11	15	17(5)	19+1(5)	20(10)	14(15)	24(14)	120+1(49)
最終合格者	名桜生	1	2	3	7	4	5	7	29
	一般	8	8	9	13	17	17	24	96
	合計	9	10	12	20	21	22	31	125
	北部	8	9	10	14	18	17	24	100

※ ()は2次対策講座からの参加者数(過去の1次対策講座受講者も含む)

2020年度の+は1人で2自治体に合格

北部出身の合格者数

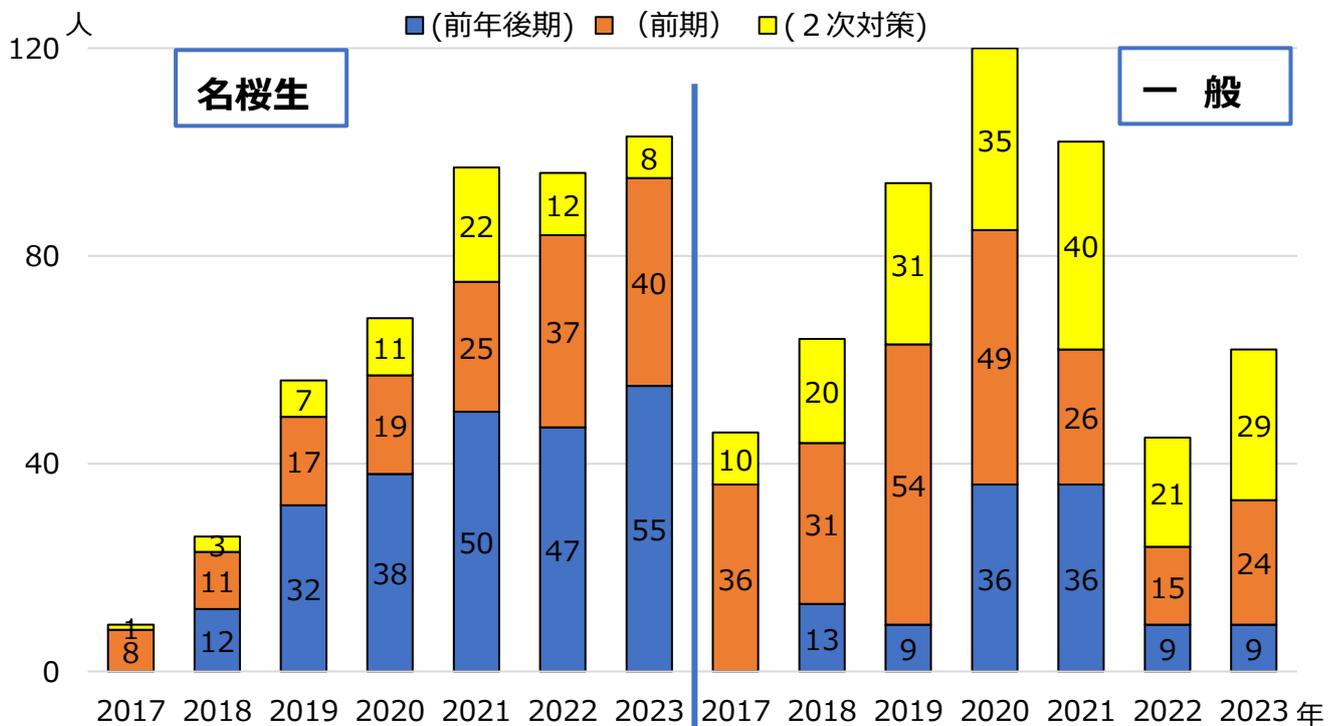
表2 2023年度教員採用試験実施状況 合格者数及び合格率(%)

合格率	名桜大生	一般受講者	名桜既卒生**	合格率の計算式
1次試験	11人(65%)	24人(68%)	16人(17%)	1次試験合格者数/1次受験者数×100
2次試験	7人*(70%)	24人*(89%)	13人(81%)	2次試験合格者数/二次受験者数×100

* 名桜生1次合格者に3年次合格者1名を含む。一般受講者は、2次試験対策講座からの参加もあった。

** 名桜既卒生は県内受験者のみ、今年度受講者2名含む。その他は過去の受講者+講座外の合格者。

7年間の受講者数の推移



※ コロナ禍での対面講座の制限がある中でも努力を惜まず、継続してきた受講者の精進が今年度の実績に繋がっていると解釈できます。また、以前の受講者の中にも、仕事との両立を図りながら自力で教採の1次試験対策に取り組み、見事合格を果たし、2次試験対策からは本講座に参加し、最終合格した受講者が多かったのも今年の特徴でした。

(2023年11月6日 報告 北部教育研修センター長)

2023年度 名桜生のための「教員養成講座 入門編」

2023年度 名桜生のための「教員養成講座 入門編」を10月13日（金）に開講しました。申込者は24人、現在は17人が講座を受講しています。本講座は、これから教員採用試験の勉強を始める学生のための講座で10月30日までの5回実施する予定です。教員採用試験の出題範囲や学習指導要領、各県の教育施策などの紹介や勉強の仕方について学びます。引き続き11月1日（水）から地域の一般受講者も含めて、2024年度実施の教員採用試験対策講座がスタートします。

入門編講座1回目は、教員になりたいと思った動機や時期について、受講者同志で情報交換を行いました。

教員になりたいと思った時期は、中学1年生の頃からが多く、高校、大学からという学生もいました。

○教職を希望した動機は、以下のような報告がありました。

- ・中学生の頃、教師に向いていると言われたことから教師に成りたいと思うようになった。
- ・高校の頃の先生に出会い、その生き方にとても影響を受けた。その経験から私も生徒に一つでも良い影響を与える存在になりたいと思った。
- ・困っている子どもを助けたいと思う。学校に逃げ込める場所を創りたい。心身共にサポートが求められるため一番関わることができる学校に勤めたい。
- ・中学校一年の時に直感で「教師になりたい」と感じた。生徒の進路選択に目標を与え、達成できるように導くことができることに魅力を感じた。保健体育を通して生きることや学ぶことの楽しさを伝えたい。
- ・中学校の先生に憧れ、将来どんな人になりたいか考えたときにあの先生だと思った。
- ・自分が中学生の時、学習面や進路面で悩んだときに話を聞いてくれたり、的確なアドバイスをくれた先生がいた。自分も人に良いきっかけを与えられるようになりたい。

<講座に参加して学んだこと、決意、感想など>

- ・今日の講座を受けて教員としての心構えや素養を学ぶことができ、とても良い機会だった。
- ・採用試験を受けると決めていてもどう勉強すれば良いか解らなかったので今日の講座を受けてモチベーションが上がった。
- ・漠然としていたことが急に現実味を感じ、とても良い刺激になった。今年から3年生も受験できるようになり時代の波に乗り、情報を取りに行く。推薦があると聞いてしっかり調べてチャンスを掴みたい。今日はありがとうございました。
- ・教採の問題を解いてみて全部正しい文章でその中から正しい正解を見つけたり、数字が少しだけ変わるのでしっかり勉強する必要があると思った。
- ・今から計画を立てて効率的に学習を続ければ自信を持って試験の臨める。早すぎることはない、できることはすぐ取り組む重要性を感じた。推薦制度もあるが、とにかく「自力」で「努力」で教師の夢を叶えたい。宜しくお願いします。
- ・県ごとに求める人材のことを知る事ができて良かった。自分はまだ教員採用試験のことを全然わかっていないことが解った。
- ・教員にどれだけ教養が必要か解った。今日から少しずつでも毎日勉強しようと思った。
- ・この講座に参加し、試験内容を理解し、計画的に勉強しようと思いました。
- ・今日の講座を受けて今後どの様に勉強すれば良いかイメージが持てた。ありがとうございました。
- ・少しずつ勉強を始めているが、今日のように練習問題を与えて貰って確認や新たな知識を学べることはありがたい。

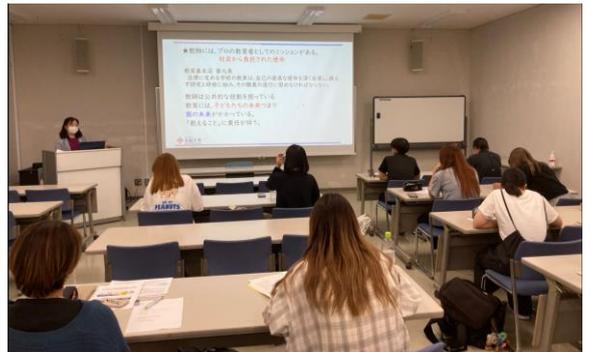


写真 10月13日講座1日目の様子

2023年度 後期開講式・合格者の体験談を聞く

去る11月1日(水)、北部生涯学習推進センター研修室において、2024年度実施の教員採用試験に向けた後期講座の開講式を行いました。次年度の教員採用試験の実施時期が前倒しされることになり、例年より早めの開講式となりました。講座申込者47人中31人が参加しました。11月6日現在の受講者は50人となっています。

開講式終了後は、本講座を受講し、今年度採用試験に合格した学生2人と一般受講者4人、計6人を招いて、合格までの学習法やモチベーション維持の体験等を紹介してもらいました。本講座の有用性を十分に認識し、自らの学び方を工夫し、日々の精励により、合格の切符を手にすることができたのだと納得させられる体験発表でした。引き続き、教科別に合格者を囲んだ情報交換を行いました。

この発表会は例年、現役生の学業との両立、一般の方の勤務先の業務との遣り繰りなど、並々ならぬ努力と自らの目標を見失うことなく教職を目指すという強い信念を感じさせてくれる貴重な発表会となっています。

今回の合格者も、昨年度の合格者の体験発表から強い刺激を受け、その激励を糧として必ずや合格を勝ち取るとの決意が述べられました。これから試験勉強に臨む学生や臨時的任用の教員の励みになる篤いメッセージを届けてくれました。

★ 印象に残ったメッセージ

○来年度の教員採用試験に取り組む皆さまも、地道な努力を少しずつ積み重ねることで、きっと結果に結びつくと思います。

本日の開講式へ参加している時点で、合格に一步近づいていると信じて頑張ってください。

○来年から、私が理想とする教員になるために頑張ります！

★ モチベーション維持の仕方

○モチベーションは教員採用試験の勉強をしている友達を見て維持していました。何度か挫折しましたが、周りで頑張っている友達を見て、「自分もやらなければ」と気持ちを切り替えて取り組みました。また、とにかく「自分ならできる」と信じて取り組み続けました。

○朝から夜まで一人で勉強していると孤独に感じることもありました。そのため、何か勉強を頑張っている人たちのいる空間(図書館やSAKURAUUMの4階等)で勉強するようにしていました。講座は、同じ教職という目標に向かって頑張っている仲間が集まっている場所なのでモチベーションをあげるには最適な場所だと感じていました。

★ 努力したこと

○目標を達成するため、対策講座には毎回参加しました。対策講座では、1回の講座で扱う問題の数がとても多かったので、予習や復習などを取り入れて同じ問題を何度も解くようにしました。教員採用試験の勉強では、1日に覚えたことや学んだことを1枚のルーズリーフにまとめ、綴っていきました。自分が覚えたことが形として残るため、とても自信になりました。試験までの最後の1週間はこれを見直して試験に臨みました。

○朝は暗記系の学習！(学習指導要領)・・・日頃起きている時間よりも30分早く起きる習慣を身につけ、指導要領をひたすら暗記をしました。(指導要領はとっても大事！！)講座の資料はとことん使う！

・講座終わりは、図書館などにいき、講座で取り組んだ学習をもう一度自分で振り返る時間を作り、基礎などを積み重ねていきました。苦手科目は諦めずに、楽しい！と思うまで解きまくる！！

○北部教員養成講座に参加することで、真剣に勉強に取り組んでいる友達や先輩を近くで見ることができ、自分も頑張ろうというモチベーションにもつながりました。また、やる気が出ない日も、講座に参加しているこの2時間だけは集中しよって決めてから取り組むことで勉強の効率もあがったと思います。

○基本仕事の日は、定時退勤を基本とし、学業を優先に平日は過ごしました。定時退勤ができるよう、日々の教材研究などの業務は、休日の日曜日の午前中のみとし、一週間分の教材研究を休日に済ませ、残りの時間は、試験勉強に取り組むという体制を取りました。※終わりきれなかった分は、放課後の定時までの時間に取り組んだり、時間を無駄にしないような意識でやりました。

★ 工夫した勉強法

○家で料理をするときや、お皿を洗っているとき、掃除をしているときに、教員養成大学のYouTubeの一言一答を流していました。最初は全く分からなかったが、講座でやった問題が出たり、何回も動画を聞くことで、覚えていたり、答えられたりすると嬉しくなり、勉強に対してのモチベーションにもなりました。

- YouTubeチャンネル「教員養成大学」を活用して、一般教養・教職教養の問題を学習。車で移動中、皿洗い中など。（目で覚える、耳で覚えるなど、自分に合う学習法を試す）付箋を目につく場所へ貼る 洗面台、トイレ、冷蔵庫など様々な場所へ100枚ぐらい貼り見る度に解いていた。
- 合格体験談の勉強法を参考にして勉強をはじめた。自分に出来そうな方法の良いところ取りをした。例えば…
 - ☆「過去問を6周する」など。（私は4周しかできなかった。）
 - 問題横に正解は○、間違った問題には×、まぐれ正解自信のない問題には△の印。
 - 1周目：全問 2周目：全問 3～4周目：指導要領と×△のみ 取り組み
- 時間管理アプリを使う iPhone：「集中|勉強・仕事のモチベーション」使用。アプリが面白くてきている。
- 勉強時間を計測でき、勉強時間が視覚化できるためモチベーションになる。
- 講座は毎回参加/前の席に座る 席は、特に一般教養・教職教養では前方に座るよう心がけた。前の席は講師の方と距離が近いので集中力は確実に上がると実感。
- 模擬試験は全部受験 正直費用も掛かるし前半の試験は何も解けない状態でしたが、圧倒的に試験慣れしていないと自覚していたため、経験値だけでも上げる目的で受験。
- 家では集中できないことが多いため、夜は地元の友だちとテレビ電話をつなげて一緒に勉強していました。
- この目標を達成するため、対策講座には毎回参加しました。対策講座では、1回の講座で扱う問題の数がとても多かったため、予習や復習などを取り入れて同じ問題を何度も解くようにしました。



写真 2023年11月1日（水）合格者の体験報告会

<受講者の決意>

- ・現役合格して来年背中を見せたい。
- ・楽しい授業を作れる先生になる。
- ・貴重な話を沢山聞くことができたので今日からスタートする気持ちで頑張り抜きたい。
- ・一発で合格するという気持ちを持つ。
- ・来年は合格できるようにする。
- ・今回、15年ぶりに教職復帰し、来年は絶対合格したい。
- ・必ず合格してお世話になった先生と一緒に働きたい。

■ 2023年度後期教員養成講座受講者数（11/6現在）

対象	受験教科							合計
	英語	養護教諭	保健体育	国語	小学校	美術	特別支援小学部	
学生	6	14	17		(1)			37(1)
一般	1	3	0	2	5	1	1	13
合計	7	17	17	2	6	1	1	50(1)

合格者の報告を受けて、次はわれらの番だという合格への熱意が感じられる開講式となりました。一般受講者は前年度より人増加していますが、さらに参加者を増やしたいと考えています。学生は例年2年次のこの時期からの受講者もいますが、今年は2年次の受講者が1人しかいないことを心配しています。採用試験が年々早くなることが予想されることから、早期対策を開始する2年次受講者にも呼び掛けているところです。

2023年度後期の教員養成講座を担当して下さった講師は26人でした。

2023年度の担当講師			
大 城 覚	渡久地 義 幸	田 中 隆 史	真 謝 啓 二
板 山 勝 樹	久 高 利美子	新 里 孝 雄	森 元 幹 生
千 葉 晶 子	田 原 貴 子	新 城 敦	高 安 美智子

（報告 2023年11月8日（水））

研修報告①

「小学校プログラミング教育研修会」を開催

2023年12月4日(月) 名桜大学人間健康学部健康情報学科 太田佐栄子上級准教授による「小学校プログラミング研修会」を、北部生涯学習推進センター パソコン室で開催いたしました。

学習指導要領には小学校プログラミングの完全実施が掲げられ、1人1台の端末が整備されつつある現在、児童がプログラミングを体験することが求められてきました。しかし、教師のITスキル不足により、プログラミングを体験する授業は不十分であることが懸念されています。特に、アフターGIGAで生じる格差が課題となっています。そこで本研修会は、小学校教員に楽しくプログラミングに向き合うための「プログラミング基礎」を学ぶことを目的として企画しました。

研修①「プログラミング教育ってなに?」

○なぜ小学校にプログラミング教育を導入するのか

コンピュータの機能を理解し、あらゆる活動において、これらを上手に活用していく力を身につけることは、コンピュータ等を活用することが求められるこれからの社会を生きていく子ども達にとって、将来、どのような職業に就くとしても、極めて重要なものだから。

○コンピュータをより適切、効果的に活用していくためには、その仕組みを知る事が重要。コンピュータは人が命令を与えることで動作する。端的に言えばこの命令が「プログラミング」です。

○小学校プログラミングのねらいと位置付け

研修②「プログラミング(scratch3.0)をやってみよう」

○4年生が初めてプログラミングやスクラッチをすると想定

○プログラムとは何か、プログラムによってコンピュータを意図したとおりに動かすこと

○スクラッチの基本操作

<研修者の感想から>

○楽しかった♪ やってみようと思った。ありがとうございました。

○実際に操作しながら、基礎から学べたのでありがたい機会でした。低学年にも分かりやすく教えられるよう、ペアプログラミングから始めていきます！ありがとうございました(^^)

○スクラッチのプログラミングの仕方が、少しわかった。自分でも活用していかないと、すぐに忘れてしまいそうですが…。今後の教育には不可欠ということは理解できました。

○今回このような研修をしていただき、参加してよかったです。小学校教育に携わっているなかで、スクラッチの内容を拝見するのが恥ずかしながら初めてでした。初級編として取り扱っていただき、児童と同じペースで体験することができてわかりやすかったです。子供たちが楽しんで実践できるよう学校に戻っても活用していきたいと思います。本当にありがとうございました

○プログラミングのスクラッチは、前に試したことがあるので、できるかな?と思いましたが、操作が難しく「子どもに教えることは大変そうだ」と思いましたが、子どもたちに任せて授業して、プログラミングの楽しさを伝えることができたらいいなと思いました。とても勉強になりました。ありがとうございました。

○スクラッチの復習ができ、参考になる資料をたくさん頂きましたありがとうございます。

<今後受けたい研修テーマ>

○メグビット、ねこにげ、Ochromeブックで使える役立つオンライン学習サイトの紹介等

○授業や学習教材としてのクロームブックの活用の仕方等 ○クロームブックで使えるオンライン学習等



写真1 講座の様子



写真2 研修会の様子

● 研修のライドより抜粋



★ 「小学校プログラミング教育」が必修化され、小・中・高校を通じてプログラミング教育の充実が求められています。

文部科学省は、「プログラミング教育」の実施に当たっては、「教員は、研修を受ける必要がある。」として、全国の市町村教育委員会における小学校プログラミング教育に関する研修の状況調査の結果を公表しています。その受講率は学校や都道府県によってばらつきがあり、令和元年の調査結果で沖縄県の実施率は低い状況でした。

小学校プログラミングでは、コンピュータに意図した処理を行わせるためには必要な手順があることなどへの「気付き」が重要であると示しています。さらに、上位の学校群の児童生徒は、下位の学校群と比べ、学校で情報を収集したり表やグラフを作成したり、発表するためのスライド資料の作成などに、ICTを活用する頻度が高い傾向にあると分析しています。

今回の研修会は、プログラミングの楽しさや面白さ、達成感などを味わい、授業で活用して欲しいという趣旨で行われました。重要なことは、子供たちに体験の場を設けることです。子供たちは直ぐに上達するという報告が県外の研修会でもありました。一緒に始めましょう！

名桜大学健康情報学科では、ICT を活用した授業づくりのための教員のサポートを積極的に応援したいと考えています。ご要望に応じて、授業づくり勉強会や研修会を実施いたします。一緒に企画しませんか？

2年前の県外研修で、小学校プログラミングの授業報告を聞く機会があり、その報告では、「失敗を恐れずチャレンジする姿勢」を身に付けさせることが重要だと強調されています。さらに、教師自身が「失敗を恐れずチャレンジする」姿勢を子どもたちと共有したという報告がありました。その結果、教師よりも指導を受けた子供たちの方が、上達が早く、ユーチューブなどで、どんどん新しいことを学んで楽しんでいるという報告でした。情報化時代、様々な実践事例報告があります。是非活用して子どもたちと一緒に体験して欲しいと思います。

★ 今回の研修会は、プログラミングの楽しさや面白さ、達成感などを味わい、授業で活用して欲しいという趣旨で行われました。重要なことは、子供たちに体験の場を設けることです。子供たちは直ぐに上達するという報告が県外の研修会でもありました。一緒に始めましょう！名桜大学は、先生方を応援します。

(報告 2023年12月15日(金) 名桜大学北部教育研修センター長)

参考引用資料 文部科学省「小学校プログラミング教育に関する研修教材」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416408.htm NHK for School「Why! ? プログラミング」
<https://www.nhk.or.jp/school/sougou/programming/>

・映像、サンプルプログラム等がある ・小学校プログラミング教育の手引き（第三版／令和2年2月付）

2024年度に向けて「教職スタートアップ研修会」開催

2024年2月7日(水)、北部生涯学習推進センターにて「教職スタートアップ研修会」を開催しました。

本研修は、通算3回目となりますが、今年は国頭教育事務所から4人の指導主事を講師としてお招きしました。4月から教壇に立つ予定の県内勤務希望者4名、県外での勤務希望者3名の計7名の学生が参加しました。

最初に、千葉晶子主任指導主事より、「教師になる皆様へ」と題して、学習指導要領改訂の考え方、子どもの主体的な学びを支援する伴走者としての能力を備えている教職員の姿、いい教師の条件についてお話がありました。

次に、「学級経営について」をテーマに玉城聖江社会教育主事より説明がありました。どんな学級をつくりたいですか、学級経営ってどんなことするの？ 教師として、一人の人間として心がけたいことは？ こんな場面ではどうするの？ など、具体的な場面設定を投げかけ、教師として心がけたい大切な言葉の紹介がありました。さらに、持続可能な社会の担い手として自立した学習者をどのように育てるかについて、これからの教師の成長を応援する厚い思いが伝わってきました。

続けて、宮城右指導主事から、「生徒指導」をテーマに、生徒指導の定義及び教育活動における生徒指導の位置づけなど、生徒指導の重層的支援構造についての解説がありました。例えば、いじめ問題への対応や児童生徒理解の重要性及び組織的な対応について、チーム学校としての対応姿勢やキーワードを挙げた丁寧なレクチャーでした。

おわりに、指導班の仲宗根指導主事より一人一人の特性に応じた手立てや、できた喜び、わかった喜びを味わわせる「児童生徒が主体的に学びに向かう」指導方法や、特別支援学級における自立活動や教師の支援について、現場の様子をより具体的に体験できるスライド紹介もありました。

むすびに、「皆さんが教師として学校現場で活躍している姿を心から楽しみにしています。」という激励のメッセージで研修会を締めくくりました。



★ 受講者の学び

- 学級経営や生徒指導など、これまでイメージしにくかったもの、コトの意味や意義を確認でき、自分の中で整理できた。
- 現場の事例を聞くことができたので大変良かった。
自分の気持ちや目指したいものを再確認できた。現場のリアルな話を聞くことができて良かったです。
- 保健室には生徒の悩みや本音等が集まりやすい、又、生徒の課題にはチームとして全体で対応していくことが重要とのことだったので情報収集及び共有・発信ができる存在になりたいと思った。
- 玉城先生が子ども達との関わり方で簡単なアイスブレイクが効果的とおっしゃったので活用したい。又、仲宗根先生も花を生ける等、子供に対して教育的愛情を持って教育活動をやってこられたと感じました。そのことからオリジナリティのある関わり方や姿勢を持ちたいと思った。
- 今日の研修会を通して、生徒や他の職員、保護者と真摯に向き合うことが大切であると学びました。答えを与えたり、全て指導するのが教師ではなく、そこにたどり着くまでの過程を伝えることが大切だと学びました。
- 研修会の発問で、改めて自分はどの様な教師になりたいのか、どの様な思いで教師を目指しているのか考えることができました。子供、教師、保護者と関わる際に学んだことを活用したいです。

★ 教職スタートアップ研修会で学んだこと、印象に残ったこと、感想等

- 「教師になっても学び続ける」という言葉を多くの講師から聞いたのが印象に残っている。
実際に教壇に立つのは、大学院を卒業した2年後であるが、その時に今日学んだことを活かしていきたい。
本日は貴重なお話を頂きありがとうございました。
- 来年から教職大学院で学級経営と授業実践について学びます。まだ、教育実習でさえも不安な私ですが、今日の話聞いて、子ども達との向き合い方や教師としての在り方を再確認する事ができ、教職に就いてから頑張りたいと再度気持ちを固めることができました。子ども達を誰一人見捨てない、そんな教師を目指して頑張ります。
- 学級(保健室)経営において大事なこと、子供、同僚、保護者と関わる際に意識することについて学ぶことができました。まだまだ知識・技術不足なところが沢山有ると思いますが、学ぶ姿勢と誠実な態度を心がけていきたいと思います。貴重なお話を聞いて良かったです。ありがとうございました。
- 学級経営や生徒指導は養護教諭とあまり関係ないと思っていたのですが、そうではなく、全て繋がっていることを学ぶことができました。保健室は様々な課題を抱えた生徒や情報が来るので一人で抱え込まず、他の教員と連携して課題解決していきたいと思いました。自分の目指す養護教諭、保健室を作っていけるよう頑張ります。そして、失敗をおそれずチャレンジしていきます。お忙しい中ありがとうございました。
- 先生になるに当たって、不安が凄く大きかったが、講師の先生方の経験談も踏まえながら聞いていると最初は落ち込むことや不安があっても、それに勝る喜びもあり、やりがいのある仕事であると感じた。そして、現場にでた時には援助欲求を頭に置いて一人で抱え込まず、先輩方に協力や助言を求めながら頑張っていきたい。
- 4月から臨時として働きたいと思っているものの、不安な気持ちが大きくなるばかりでした。しかし、今日話を聞いて先生方が現場での想いを楽しそうに語るのが印象的でした。今は不安よりも4月からの仕事が楽しみです。
貴重なお時間をありがとうございました。
- 研修前は、4月からの学校現場に大きな不安がありましたが、研修を通してそれ以上に喜びやワクワクが沢山あると感じました。子供に「どうしたの?」と問いかけること、主体性を大切にしている指導を心がけたいと思います。どんな教師になりたいかを改めて考えた時、自分が生徒の時に助けてくれ、手を差し伸べてくれた先生のように子供の日頃の様子をよく見て、変化に気づき、行動できる教師になりたいと思いました。
本日は、貴重なお話を沢山して頂き、本当にありがとうございました。

「教職スタートアップ研修会」は、教員を志望して4年間頑張った学生達が、4月から教壇に立つことへの不安を緩和したいと考え企画しています。

新しい環境に飛び込む不安は、誰にでもあるものですが、教員の仕事は、日々の実践を通して、児童生徒との触れ合いの中でやりがいを見出し、その不安を喜びに変えていくものだと思っています。

研修後の学生の感想には、4人の指導主事の皆さんの楽しそうな表情や力強い言葉から、教職への熱意とやりがいや魅力が伝わり、不安から期待へ変わっていく様子を垣間見ることが出来ました。名桜大学での4年間の学びに自信をもって教壇に立ち、成長していく皆さんを応援したいと思います。

今回は、春季休み前の学生対象の研修会でしたが、3月22日(金)には、引き続き、国頭教育事務所の指導主事の皆様のご協力をいただき、一般の希望者対象の「教職スタートアップ研修」を開催する予定です。

お忙しい中、本センターの研修会に賛同くださり、ご協力を賜りました指導主事の皆様に心よりお礼を申し上げます。



写真 国頭教育事務所の指導主事の皆様

2024 年度 「中学校英語教育研修会」

2024(令和6)年2月27日、北部生涯学習推進センターにて「中学校英語教育研修会」を開催いたしました。

講師に西村秀之氏（玉川大学教職大学院 准教授）をお招きし、「5 ラウンドシステムによる第2言語習得の理論」のテーマで講演していただきました。先生は、英語のカリキュラムに基づく「5 ラウンドシステム」の授業を考案・実践し、言語習得等を踏まえた英語教育の指導法を積極的に推進し、その成果を研究していらっしゃいます。

「5 ラウンドシステム」とは、中学校英語の授業において、1年間に教科書を5回くり返し学習する方式のことで、言語学習の定着を図り、資質・能力を育成する授業づくりであり、「5 ラウンドシステム」による授業実践と子どもたちの学びの成果についてのご報告でした。

アンケートの結果から、子どもが英語を苦手とする理由として「単語を覚えることが苦手、覚えることがメインになってしまう」等の意見があり、言語習得は、リスニング（聞くこと）から初め、内容理解、音読指導を段階的に進め、英語を聞こうとする姿勢、話そうとする姿勢を育てる授業づくりの重要性について力説されていました。

「多くの先生方が、言語活動を取り入れて実践を行っています。言語活動は、学習者に必要感のある活動であることが重要です。生徒の活用場面が沢山設定されていますか？」との問いかけがありました。指導に当たって、次の説明もありました。



★参考にして欲しい授業改善の考え方のポイント

「本当に使える英語」を生徒がいかにして身につけるか！

1. ゴールを設定すること。どのような力をつけるか！

「自分の思いや考えを自分の言葉（英語）で語れる生徒を育てる！」

2. アウトプットよりインプットが重要！

3. 「繰り返すこと」で英語運用能力を育成する。

5 ラウンドの授業の構造の特徴は、スパイラル活動と帯活動！

言語材料に何度も何度も触れるスパイラル学習が必要！

ただし意味のある繰り返しを！

<5 ラウンドの授業の構造>

- R1 リスニングによる内容理解
- R2 音情報と文字情報の一致
- R3 音読
- R4 穴あき音読
- R5 Retelling(自分の言葉でストーリーを伝える)

◎ 今回の研修会で得た、成果や活用策について受講者の声

〇言いたいことを英語化して音声化する。言語習得のプロセスの途中で必要になることを知る事ができた。

インテイク後→取り込む→統合化→アウトプット→フィードバック等

〇「気づけば10回聞いていた」という意味のある繰り返しをどう仕掛けていくか？ここに注力することを教師は楽しみたい。

〇第二言語習得におけるメカニズム、日本の英語教育が目指すべき、育成すべき生徒の姿をしっかりとイメージすることができた。5領域をまんべんなく使った5ステップの在り方

〇本文の内容理解だったり、音読をただやらせるのではなく、意味づけして、生徒の意欲を高めてから本文に取り組む事で生徒が英語に対して興味を示す教授法について知る事ができた。

〇今の私の授業をも一度整理してみようと思った。5ラウンドの取組と他の取組を考える。

〇仕掛けを作っているの間にか10回やっていたと言うことが素晴らしいと思った。

〇とても興味のある内容だったのでもっと長く、質問したりする時間が欲しかった。

〇再度、5ラウンドシステムのことについて確認することができました。

〇第二言語習得に基づいて子供の可能性を活かす授業改善をしていきたいと思いました。

- 私もここ2年5ラウンドに挑戦していますが、「育てたい生徒像」を明確にこれからもトライしていきたいと思います。
- 繰り返し活動する際に違う視点から考えさせる。又、英語学習者は授業の中で約79%言語活動をして「英語が好き」「得意である」という結果に繋がっているので授業の中でインプットも大切にしつつ、言語活動も取り入れる意識を持ちたい。

◎ 今回の研修会で学んだこと、印象に残ったこと

- 5ラウンドシステムが授業改善から生まれたと知り、さらに興味が高まりました。授業をする際に、教科書をこなすことがメインになりがちだと実感した。言語習得のプロセスを知る事ができ、また、繰り返し行うことがインプットに繋がると感じた。
- 目的をしっかりと捉えて教育活動を展開していくことはとても大切だとつくづく感じた。
- 今回の研修を通して英語教員として意識すべきポイントや意味のある繰り返しの大切さが解った。インプットを主体として生徒に気づかせる授業づくりに全力で取り組みたいと思った。教師の取り組む姿勢は生徒にも反映されると解ったので楽しみながら取り組みたい。
- 今まで自分が受けてきた授業とは違い、ただやるのではなく生徒の興味を引いてから、生徒の方がやりたいと思う工夫がとても素敵で参考になりました。
- 生徒の主体性を引き出すために教師が考えなければならないことを示して頂きました。
- 5ラウンドを二年間やってきて、子ども達の成長と第2言語習得の理論に伴った指導方法はとても画期的でした。やはり一番悩んだのが評価、テスト、帯活動や文法指導だったのでそのお話を又聞きたいと思います。
- 「つかえるようになるまで」「自信を持って発する」将来、外国語で自分の思い、考えを伝えることを喜び、他の意見を聞き、生き方につなげる。
- 「何かを教えるのではなく、子供をどう乗せるのか」この言葉が凄く印象に残っています。授業中に生徒がやりたくなるよう(主体的に)な言葉かけや仕掛けを工夫したいと思います。
- 中学校三年間5ラウンドシステムに取り組んできた生徒の高校・大学への繋ぎやその後を知りたいです。
- 5ラウンドの構造が面白い。
- 言語習得の過程を知ることができて良かった。

◎ 今後の研修への要望

- このような研修の機会を作って頂き感謝します。
- 又今度も5ラウンドの次のステージ、展開の研修をお願いします。
- 又色々な理論や実践の研修機会をお願いします。
- 是非、次回も参加したいと思いました。
- 今後も新たな視点を取り入れられるような研修の実施をお願いします。



写真1 研修会の様子

北部教育センターは、各市町村教育委員会等と連携し、北部の教育課題について検討し、国頭教育事務所の英語の指導主事の推薦で講師を招聘し、国頭教育事務所の共催で英語教育研修会を開催いたしました。

英語の教員にとって、言語習得の理論に触れ、その教授法を実践的に学ぶことは、自らの授業力向上に繋がることが実感できる貴重な研修会となりました。授業づくりに当たっては、ゴールを明確にイメージし、どのような力を育むかを一貫して進めることがより重要となることを気付かされる研修会でした。充実した研修会でしたが、参加者が少なかったのが残念です。

研修に参加した先生方が、今回の学びを自身の授業改善に資するとともに、研修会の成果を同僚と共有することで、さらに学びは深まるものと思われます。5ラウンドシステムの意を組み、生徒が楽しく、学びに向かう姿と英語を話したくなるような姿を想像しながら授業づくりに挑戦して欲しいと願っています。

参加者：対面 17 人、オンライン参加 11 人

(本務教員 11 人、臨時的任用教員 6 人、学習支援員 1 人、学生 8 人、指導主事 1 人、出版社 1 人)

(報告 2024 年 3 月 5 日 北部教育研修センター長)

2024（令和6）年度（前期）「教員養成講座」スタート！

3月4日（月）に、2024年度（前期）教員採用試験対策講座の開講式を北部生涯学習推進センターにて行いました。未だ帰省中の学生も多いため、開講式の参加者は17人でしたが、講座受講申込みは現在、学生31人、一般24人、計55人となっています。前年度に比べて一般の受講者が増えています。直接講座に参加することが難しい人はオンライン参加で頑張ることもできます。また申込みを迷っている人は、随時申込を受け付けますので、一緒に参加しませんか？

講座の趣旨及び目的

北部教員養成講座は、北部地区の教職を志す者の教員候補者選考試験対策を行うことによりその合格を支援し、北部地区管内における教員の人材確保及び定着を図り、児童生徒の学力向上に資することを目的とする。

講座実施日

教職・一般教養 週2回（毎週火・木曜日）
専門教養は月曜日・水曜日（教科別）

受講者の教科は、英語14人、保健体育13人、養護教諭15人、小学校9人、国語2人、美術1人、特別支援1人、計55人です。



写真1 開講式の様子



写真2 2人の合格体験発表の様子

合格体験発表

◎受験校種「小学校」 安慶田 正真 さん

◇一次試験対策は、自学では、「専門試験（小学校）の勉強に重きをおいて行い、「一般教養・教職教養」は、教員養成講座で勉強したことを復習しました。

講座中は配布プリントではなく、自分のノートに答えを書き、家に帰ってもう一度プリントを解く。できなかった時は翌日にもう一回プリントに解く。ということ徹底しました。

様々な事情もあり一発で合格するしかないという状況がモチベーションにつながった。講座では、集中力を切らさないよういつでも前列で講師の近くで受講したことが良かった。

◎受験校種「高校英語」 安里 千晃 さん

◇教採合格と英検1級合格を目標にして対策をした。

養成講座に休まず参加し、講座を受けて頑張っている他の受講生と一緒にやることでモチベーションを維持した。英語は、車での移動の時間はリスニング対策、掃除しながら、散歩しながら、料理しながらとにかく英語に触れる時間を増やした。講座で配布された問題で間違いやわからないことがある場合は必ず調べ、気持ち的にとてもすっきりした。

<受講者の決意の言葉・感想等>

- 英検準1級を目指して勉強を頑張る。
- 休まない、何回も問題を解く、隙間時間を有効利用する
- 自分のみでやろうとせず、周りと協力しながら頑張る。
- 一発で合格できるように頑張ります。
- 諦めないで頑張る。○時間を大切にすること
- 今回の採用試験では必ず合格したい。臨任として7年現場にいて、苦しいときや楽しいときもあります。その中で子供と共に学び、成長する姿を見ることができ、やりがいを感じます。子育てと仕事の両立の中ですが、合格に向けて勉強に励みたい。

★「北部教員養成講座」は、2024（令和6）年度より、名桜大学教員養成支援センターが、これまでのシステムを継続し、運営していきます。北部地区各教育委員会及び学校現場とさらなる連携を図り、これからの教育を担う教員の養成に、今後ともご理解と、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。